

トマス・ムア

## 1 ディズマル・スワンプ湖のバラッド

(ヴァージニア州ノーフォークにて)

「愛する乙女の死に正気を失ったある若者についてのうわさがある。この若者は突然友人たちの前から姿を消し、その後消息不明となったのだ。彼はよく、彼女は死んだんじゃない、ディズマル・スワンプ湖へ行ったんだとうわごとのように言っていたので、おそらくその薄暗い荒地へと足を踏み入れ、飢えで亡くなったか、あるいは恐ろしい沼地にはまって命を落としたのだろう。」(作者不明)

「詩は本質的に狂気を秘めている。」(ダランベール)

「とても清らかで温かい魂の持主なのに

あそこは彼女にはあまりにも冷たくてじとじとした墓

彼女はディズマル・スワンプ湖に行ってしまった

そこで 一晩中 蛍の光で

白いカヌーを漕いでるんだ

5

「だからその蛍の光を見つけに行こう

はやく彼女の漕ぐ櫂の音を聞きに行こう

二人で末永く睦まじく暮らそう

そして死の足音が近づいたなら

僕は彼女を糸杉の中に隠そう」

10

若者はディズマル・スワンプ湖へと急ぐ

行く手を阻む荒く険しい道

からみつくネズ 生い茂る葦

蛇が潜むたくさんの沼地をゆく

誰も足を踏み入れたことのない沼地を

15

若者の瞼にまどろみが訪れ

大地の上で眠りに落ちる時

恐ろしい蔦の毒のある涙が

夜ごと滴るところで

彼は水ぶくれしたその肉体を横たえた 20

近くでメス狼が茂みをゆらし  
赤い蛇が耳元で息を吐く  
ついに夢から覚めて若者は叫んだ  
「ああ いつになったらあの薄暗い湖にたどりつけるのか  
あの僕の恋人の白いカヌーに」 25

ついに湖にたどりつくと 明るく輝く一条の光が  
水面を素早く動いていた  
「やっと会えたね 僕の恋人の光」  
薄暗い岸边には 冷たくなった乙女の名が  
幾夜も木霊となって鳴り響いた 30

ついに 樺の木をくり抜いて小舟を作り  
若者は湖上に乗り出した  
遠くに輝く光を追いかけたが  
風は強く 雲は低く垂れこめ  
小舟は二度と戻ってはこなかった 35

けれどもインディアンの狩り場からは見えることがある  
しばしば このまことの恋人たちが  
湿っぽい真夜中にあらわれて  
蛍の光で湖を横切ろうと  
白いカヌーを漕いでいる姿が 40

(三木菜緒美訳)